「アオちゃん」

—二稿—

2026/2/9

〈人物表〉

姉崎（あねさき）　瑞希（みずき）　（２８）　求職中

佐藤（さとう）　蒼（あおい）　（２９）　瑞希の友人

1. 瑞希の自宅（夜）

姉崎瑞希（２８）、ベッドでゴロゴロとスマホで動画を見ている。
と、「選考結果のお知らせ」のメール。
「この度は誠に残念ながら……」の文面。
瑞希、ふっと一つ、息を吐く。

2. 喫茶店・外観（昼）

どこにでもあるチェーンの喫茶店。

3. 喫茶店・内（昼）

ガツガツとケーキを突いて食べる佐藤蒼（２９）と、向かいで丁寧にケーキを食べる瑞希。二人とも、部屋着に毛が生えたようなズボラな格好。
店員、空になった二人のコップにお冷を注ぐ。
蒼、ハッとそれを見て、神妙な感じで語り出す。

蒼　「歯医者さんのさ、お水飲むコップあるじゃん」
瑞希　「え？」
蒼　「ほら、飲んで、置いたら、すぐお水入れてくれるやつ」
瑞希　「あー、あれか」
蒼　「うん。あれってさ、便利だよね」
瑞希　「うん、まあ？」
蒼　「だってお家にあったらさ、好きな飲み物入れてエンドレスで飲めるじゃん？　すごく良くない？」
瑞希　「えっとー」
蒼　「あれどこで売ってんだろ」
と、考え出す。
瑞希　「……あれ、飲んでるの？　うがい用じゃないの？」
蒼、聞いておらず、至って真剣な表情で思案。
瑞希のスマホ、モバイルバッテリーに繋がれている。
瑞希、一呼吸あって愛想笑いで、
瑞希　「んー、家電量販店、とかかな？」
蒼　「え、何で知ってんの？」
と、純粋な驚き。

蒼「歯医者さん行ってるから？」
瑞希「いや、分かんないけど」
蒼「え、今度聞いといて。値段とかも」
瑞希「……うん」
蒼「姉崎なら、何入れる？」
瑞希「ビール、とか？」
蒼「私も炭酸系がいいと思う」
思いの外、力強い共感。驚く瑞希。
蒼「普通のコップだとさ、炭酸抜けてっちゃうじゃん？」
と、飲み終わりのコーラを一口飲む。
蒼「あれだったら、小さいから一口で飲めるし。で、またすぐシュワシュワじゃん？」
瑞希「あー、なるほどねー」
と、ケーキを食べつつ蒼に適当に合わせ、会話を続けている。
瑞希M「アオちゃんは昔から、こういう子なんである」

4.

帰り道（昼）

二人、並んで歩いている。
瑞希「さっきのケーキ美味しかったねー」
蒼「ねー」
瑞希「アオちゃん明日さ、映画観に行かない？」
瑞希M「アオちゃんの映画の感想を聞くのは時々映画より面白い」
蒼「明日仕事」
瑞希「あ、そうなんだ？」
蒼「うん」
瑞希「アオちゃんって、今なんの仕事してんだっけ」
蒼「事務」
瑞希「あー、そだったね」
瑞希M「アオちゃんの仕事はいつ聞いても『事務』。それ以上は知らないし、知られたくないのかも、とすら思う」
蒼「冬ってさー、みんな暖房付けてるのに何でこんな寒いんだろうね」
瑞希M「そしてアオちゃんがちゃんと働いてることにいつも驚く」

突き当たりに来て、

蒼　「じゃ、ここで」

瑞希「うん。また」

瑞希、笑顔で手を振り、蒼を見送る。

瑞希M「かくいう私も働いてたりいなかったりいなかったりなので、アオちゃんなりの気遣いかと思って、何も言わない」

瑞希、一人で帰路に着く。

瑞希M「それが私の小中の同級生で、今や唯一の友人なのである」

5. 歯医者（昼）

歯科医「はいお口ゆすいでくださーい」

瑞希、歯医者で治療を受けている。

ふと右手の紙コップに目をやり、固まる。

歯科医「どうしましたー？」

瑞希「あのー、これって」

歯科医「え、何ですか？　どっか痛いですかー？」

瑞希、我に返って、

瑞希「あ、いや何でもないです」

歯科医「？」

瑞希、口をゆすいで紙コップを元の場所に置く。

歯科医「はい倒しまーす」

と、リクライニング。

瑞希、置いた紙コップにすぐさま水が注がれるのを見ている。

と、瑞希の携帯に着信。

瑞希、ポッケの携帯に手を伸ばそうと、もがく。

歯科医「どっか痛いですかー？」

6. 歯医者の前（昼）

瑞希、通話中。

瑞希「今歯医者終わったとこ。なに？　モバイルバッテリー？」

と、鞄をガサゴソしてモバイルバッテリーを発見。

瑞希「ごめん昨日借りたまんまじゃん」

瑞希、ボタンを押すと、十分充電は残っている様子。

瑞希　「え、今から？　あー、うん。いいけど？」

7. オフィス街・交差点の角（昼）

瑞希、壁沿いに立っている。
街ゆく人々は、スーツ姿のビジネスマンや、長財布片手にランチに繰り出すＯＬばかり。
ほぼ部屋着姿の瑞希、やや浮いていて、恐縮気味。

蒼　「姉崎ー？」

と、そこにはビシッとビジネスカジュアルで決めた蒼。打って変わり、しっかりメイクもして小綺麗。
瑞希、あっけに取られて蒼の格好をジロジロ。

蒼　「ごめんわざわざ来てもらって。姉崎？」

瑞希、我に帰って、

瑞希　「……大丈夫。たまたま近くに来てたから」

蒼　「ならよかった」

瑞希、目のやりどころに困っていると、

蒼　「メシ、行く？」

蒼の手には、革の長財布。

8. レストラン（昼）

二人の足元、瑞希のサンダルと蒼のパンプス。
オフィス街の眺望を望める高層階のレストラン。フォーマルな服装の客ばかり。穏やかなジャズの音色。
瑞希、縮こまってキョロキョロしている。
と、料理が運ばれてくる。小鉢が沢山付いてる定食。

ウェイター「ごゆっくりどうぞ」

瑞希、ぎこちない愛想笑いで返事。
蒼の右胸には名札。「佐藤蒼」の字。

瑞希　「あのさ」

蒼　「ん？」

瑞希　「……アオちゃんってさ」

蒼　「あ、歯医者さん聞いてくれた？」

瑞希　「え？」

蒼　「コップ、どこで売ってるか。あといくらか」

瑞希「……あ、ごめん」
蒼「なんだよー」
　と、蒼、手を合わせてからガツガツと食べ出す。
　瑞希、蒼を見て吹き出す。安堵。
蒼「え？」
瑞希「ん、ごめん、聞いとくね」
蒼「姉崎何笑ってんの」
瑞希「ううん」
蒼「は？」
瑞希「何でもない」
　瑞希、食べ出す。
蒼「てかさ、歯医者さんのコップだと小さいわ」
瑞稀「うん？」
蒼「がぶ飲みできないじゃん、コーラ」
瑞稀「……ああ、うん」
瑞希M「アオちゃん、あなたが着ているのはそんな話をしてたら殺される部族の装束じゃないのか」
蒼「要は炭酸が抜けなきゃいいわけよ」
瑞稀「氷入れるんじゃダメなの？」
蒼「ダメ。味薄くなる」
瑞稀「じゃあ、ステンレスのタンブラーとか？」
蒼「冷蔵庫から出した時点でさ、もう抜け始めてるじゃん」
　と、子供のように険しく顔を歪める。
瑞希M「アオちゃん、どうしてその格好でグズることができるんだ」
瑞希「なら、冷蔵庫のまま飲むしかないよ」
蒼「どうやって」
　瑞稀、詰まって、
瑞稀「長ーいチューブを刺すとか？」
蒼「それだ」
　と、合点の行った顔。
瑞希M「ありがとう、アオちゃん」

９．　オフィス街（昼）

蒼　「助かったわ。ありがと」
瑞希　「うん」
蒼　「じゃ」

瑞希、手を振って蒼を見送り、踵を返して歩き出す。
瑞稀、上機嫌でスキップして、しばらく歩く。
ふと、鞄の中を見ると、モバイルバッテリー。
急いで再び踵を返すも蒼、角を曲がり見えなくなる。

瑞稀　「アオちゃーん？」

と、瑞希、追いかける。
角。蒼、どこか建物に入っていくのが見える。

１０．　オフィスビル（昼）

瑞希、立ち止まって建物の前。
見上げるほどのオフィスビル。
蒼、エレベーターに乗り込むのが見える。
追いかけるも間一髪、ドアが閉まる。
蒼のエレベーター、五階で止まるのを確認。
咄嗟に壁のフロアガイドを見て、五階テナントを確認しようとするも、ハッとして両手で目を塞ぐ。
踵を返し、立ち止まる。周囲の目線。

瑞希M「いかんいかん」

瑞稀、スマホで蒼に「モバ充渡すの忘れた」と送信。
まもなく蒼から、「アホじゃん」と返信。

１１．　ホームセンター・外観（昼）

どこにでもあるチェーンのホームセンター。

１２．　ホームセンター・店内の売り場（昼）

棚の一角に、ストローほどの細さのチューブがロール巻きになって棚に置かれている。
蒼、長さを測りながらチューブを取り出す。
瑞稀、その一端を持たされ、苦笑い。

（おわり）